

7班：「効率的なデータ収集に向けて」

○小湊卓夫(九州大学)、大地拓真(岡山大学)、加藤有沙(信州大学)、坂地亜紀(兵庫教育大学)、中澤利之(三重大学)、福岡恵梨菜(宮崎大学)

1. 議論結果の概要

第7班は国立大学の職員で、IRや評価に関しては初心者を集めたグループ構成となっている。

各大学ともに、データ収集を行ってはいけるものの、多くの困難を抱えていた。

現状を把握するために、どういった目的でデータ収集を行っているのかについて意見交換を行ったところ、IR部署を立ち上げて各種データの収集を構想したり、EMに関連したデータの収集等を構想している大学もあれば、中期目標・中期計画の進捗や達成状況を把握するために必要なデータ収集、認証評価に必要なデータの収集を目的としている大学もあり、多様であった。

そのため、データ収集の現状の多様さを確認した後、課題としてどういったものがあるのかを議論・抽出し、可能であれば、課題に対しての解決策を構想して整理するという方法で、ディスカッションを進めていった。

データ収集に関しての現状課題としては、データの所在把握の不十分さ、データ入力プロトコルの不明確さ、データ定義の不明確さ、データ入力作業の負担の多さ、データベースが整備されていないといった点が、多くの大学から指摘された。そのために、大学によっては、全学的に必要とされているデータが部署によって作られていたりいなかったりしたり、データ精度が担当者により変わるといった、データ収集そのものとは異なる側面の課題も出された。そして、多くの大学でデータの責任体制が曖昧といった点が指摘された。

2. グループ討論を通して感じた評価やIRを改善に活かすためのコツ、感想等

データ収集の課題を改善するために、データ収集の目的を明確化するとともに、データの定義集を作成し、収集時や担当者の引き継ぎ時に活用してもらうことが重要であると思われる。特に評価以外でデータを集める場合、どういったことにどのようなデータを使うのかを明確にし、データ活用により、どういったメリットが部局にあるのかをしっかりと示すことが必要であるという点が、IRの側面から指摘された。ただいずれにせよ、データ収集はトップダウンで指示してもらい、収集の責任体制を明確にすることも重要であることが確認された。

データ収集によって全学共通のデータベースが整備されれば、収集の困難が解消されるのではという意見もあったが、予算制約等を考えると、現実的ではない大学も多くあり、エクセルやアクセス等でパネルデータを作成して、情報として発信していくことが可能ではないかという意見も出された。

全体を通してみると、データ収集に対する理解が十分に得られていないことが、共通した課題であった。そのためにも以下の2点が重要であるとの結論に達した。一つはデータ定義や所在が明確にされたデータカタログの作成である。次にデータを直接扱う担当者のみならず、責任体制を明確にする意味からも、理事や副学長に対しても、データ収集の説明会を開催し、理解を深めてもらうことが提案された。

7班

チーム
データ集め

効率的なデータ収集に向けて

<現状>

なぜ現状を把握したいのか？

各種データを収集する

IR推進センターにおいて各部署から様々なデータを収集し、蓄積する。

様々な部署において様々なデータ所有している。

EMIに特化したデータの収集
各部署がそれぞれにデータを保存している

中期計画の達成のための評価指標を設定し、毎年度データを収集している。

<課題>

IRの必要性の全学的周知

必要なデータについて、どこに問い合わせれば入手できるか厳密に分からない。全学で所有先共有できていない。

どの部署がなんのデータをいつ入力するのか...が決まっていない。

部署によってデータを作成しているところとしていないところがある場合があり、同じ指標について全学部・研究科統一様式による資料の作成に手間がかかる。

データ入力項目の定義づけが不十分

収集するデータに正確な定義づけがされていない。

データ入力作業の負担

各課(部局)が保存している生データを集めるためのデータベースもしくはシステムが必要か。

データの責任体制があいまいな部分がある。

データ収集に労力がかかる。(継続性含む)

データの精度がビミョー(担当者によりけり、担当者の異動による)

<解決策と方向性>

- ① 理由・根拠
- ② 課題発見

データベースを構築せずとも、各部署からのデータを収集し、エクセル、アクセス等でパネルデータを作成して、情報として発信していくことが可能ではないか。

分かりやすい定義集の作成
引継時に徹底

データを一箇所にまとめて所有させる

データ収集の目的をはっきりさせる。→評価以外にどんなことに使いたいのか。各部署などのニーズを把握する。

トップダウンで指示してもらう(データ収集)

説明会を開催する(評価に対する理解を高めてもらう)

できればデータベースが欲しいな～

部局にきらわれたくないな～顔

直接、理事・事務担当課を集め、そこで説明する

共通する解決ポイント

学内説明会の開催

定義集(データカタログ)の作成

優良事例

国試合格率の低下

不合格者の成績の推移を見て(入試、GPA、CBT)原因を考える

成績が落ちている時期が判明したので学部でフィードバックし、学生指導に役立ててもらった。
4. 5年時(臨床実習)の成績のつけ方に問題があった